

地域医療の確保対策は



菊池 邦夫 議員

【質問】総合食育センターの施設整備は急がなければならない課題だが状況はどうなっているか。食材調達の目的に農家等によって構成される事業組合の立ち上げは。

【市長】整備手法、施設の設計及び管理運営方法について、財政的、法的検討を重ねている。構想の方向性は変わらないが、1年先送りし、平成

23年度運営開始を目指して検討している。

【質問】市民協働による地域医療確保が必要である。医療関係者の努力だけでは成り立たない時代である。受診する側と医療関係者との相互理解と信頼関係が必要と考えるが市長はどう思うか。遠野病院の現状は。

【市長】この4月から内科医と整形外科医が1人ずつ着任の予定である。医師不足が叫ばれる中、地域医療を守るためには、県だ市だと言っていない。遠野病院と連携した積極的取組の成果である。今後も市民との協働で、より良い地域医療環境づくりに努めたい。

【質問】少子化対策・子育て支援総合プランでの遠野市わらすっこ条例制定元年にあわせ、思い切って第2子以降の保育料無料化を検討し、子どもを産み育てる推進の柱にしたいと思うのだが。

【市長】遠野に住む子どもたちが、健康で元気に、そして幸せに暮らせる「まち」を目指し、子育てするなら遠野市と、感じてもらえるための市の約束事である。親子、家族の絆の再認識と地域の連帯感の醸成によるまちづくりにつながると考えている。第2子以降の保育料無料化は、条例施行元年に向け、力強く後押しするための提言と受けとめ、国策としての課題であり、機会あるごとに国、県に対して提言、要望していく。



▲明日の遠野を担う子供達

遠野農業に欠かせぬ農業委員の活用



菊池 民彌 議員

【質問】農業生産100億円アクションプランの検証結果と今後の取り組みは。

【市長】ASTの成果、手ごたえを感じている。本気に取組もうとする農家の手ごたえを得た。ASTは地道ではあるが、チャレンジし、取組活動を続けていく。

【質問】遠野農業の振興と農業委員の係わりについては。

【市長】農業委員との連携について、積極的に進める。

【質問】耕作放棄地調査状況と今までの方策については。

【市長】昨年8月～9月に農業委員会と共同で調査した。その結果、耕作放棄地と見込まれた土地は、19.4haであった。うち耕作可能地と判断された土地は11.2haで、残りの8.2haは復元不可能に区分された。遠野市農林水産振興協議会に「耕作放棄地部会」を設置し、部会中心に、耕作放棄地解消計画を策定し、対策を講じていくこととしている。

【質問】平成21年度予算編成の特徴的なものは、経常収支比率が例年80%台となり慢性化傾向にあるのでは。また国の地方財政対策の係わりは。そして後年度の財政見通しについては。

【市長】遠野スタイル創造ステップアップ予算として編成し、健全財政5ヶ年計画の堅持、少子化対策・子育て総合支援の推進等6点を上げることができる。第三セクターの見直しをするなど、経常経費の抑制に取り組んでいく。地方財政対策では、地方交付税の特別枠として、地域雇用創出推進費が盛り込まれ、県試算では当市に1億5千万円ほど見込まれる。平成21年度には、後期基本計画の策定に着手し、併せて健全財政5ヶ年計画も新たに策定する。

【質問】来る10月は市長選挙がある。出馬の意思は。

【市長】しかるべき時に判断する。



▲今後の活躍が期待される新農業委員